

# SDGs未来都市のこれから パートナーシップで実現しよう\*

2022年10月29日

飛騨高山SDGsパートナーシップセンター

東海大学・東海大学

細田 衛士

\* 発表時の資料を多少変更してあります。





# SDGs未来都市 たかやま



# SDGsとは

# 持続可能な発展（SD）とは

- **Sustainable Development (SD)**（持続可能な発展）：「将来世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズも満足させるような発展」のこと。
- 「**環境と開発に関する世界委員会**」（WCED = World Commission on Environment and Development）（委員長は当時ノルウェー首相のブルントラント、別名ブルントラント委員会と呼ぶ）による報告書 ***Our Common Future***（1987）の基本理念。

**SDは1987年までさかのぼる！**

# SD提案の背景

- **1970年代始め頃**、すなわち**公害の時代**頃から、人々の自然・人間環境について議論が深まる。
- **1980年代以降**は、オゾン層の破壊、地球温暖化、熱帯林の破壊や生物多様性の喪失など**地球環境問題が深刻化**。
- **世界的規模での早急な対策**の必要性への認識が広まる。
- 1992年に、リオデジャネイロ（ブラジル）において「**国連環境開発会議**」（**UNCED**、**「地球サミット」**）が開催され、環境分野での国際的な取組みに関する行動計画である「**アジェンダ21**」が採択された。

# アジェンダ21とは

- 1992のUNCEDで宣言された「**環境と開発に関するリオ宣言**」を受けて採択された**21世紀に向けたアクションプラン**。
- **国際経済と環境**，**貧困の撲滅**，**人口問題**などの社会経済的側面から **大気保全・水質**をはじめ**森林・農業などの開発資源の保全・管理**の問題、またそれを可能にする実施手段、など持続可能な発展（開発）に関する要点を広く押さえている。
- アジェンダ21の実施を全面的に支援するために、総会は1992年に**持続可能な開発委員会**（Commission on Sustainable Development）を設置。

# そこで新たに提案されたSDGs

- 発展途上国だけではなく先進国も**問題を共有し、ともに解決の道を進もうとして提案**されたのが**SDGs**（2030年達成目標）。
- 元々のSDの概念を体現しているが、**当初考えられていた環境問題中心の立ち位置からより広範な問題解決の立ち位置に変化した。**
- つまり、**持続可能な発展とは、SDGsの17それぞれの問題をすべて解決しなければ可能ではない**ということ。
- そして17の課題はそれぞれが**相互に深く関連**しているという認識。

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



世界を変えるための17の目標



出典：  
外務省HP



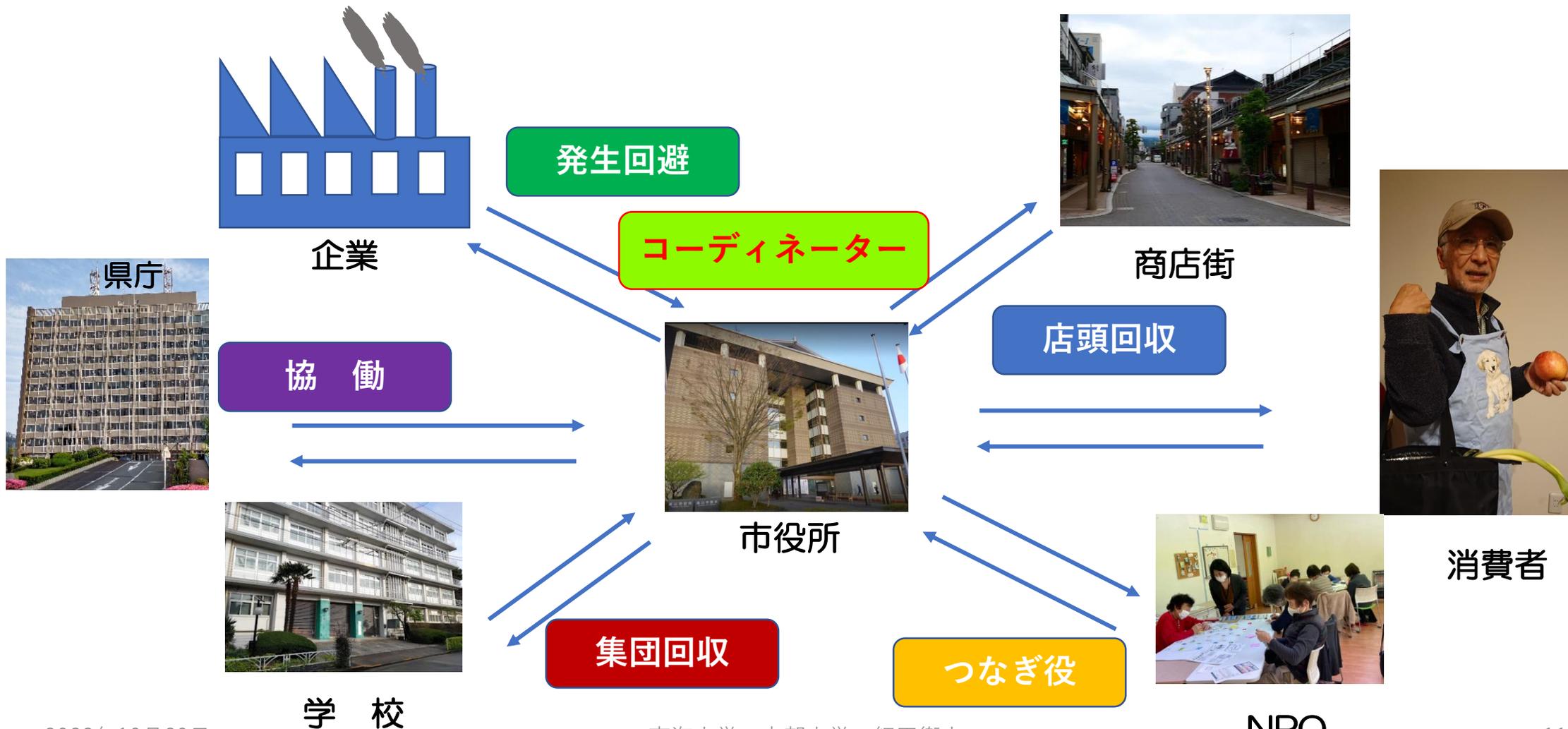
パートナーシップで達成

SDGs相互連関性の一例（目標間の関係性は他にもあり得る）

# どこから手をついたら良いのか

- SDGsの各ゴールは相互に関係している。
- どの国も、どの市町村も、どの個人も全て関係している。
- 全てを一挙に解決することは困難。
- それではどうすれば良いのだろうか？
- こう考えてみることにしよう。
- 1つ1つ解決すること、連携協力して解決することは可能。  
→ **SDGs Goal 17**：パートナーシップ

# これまでにないパートナーシップを

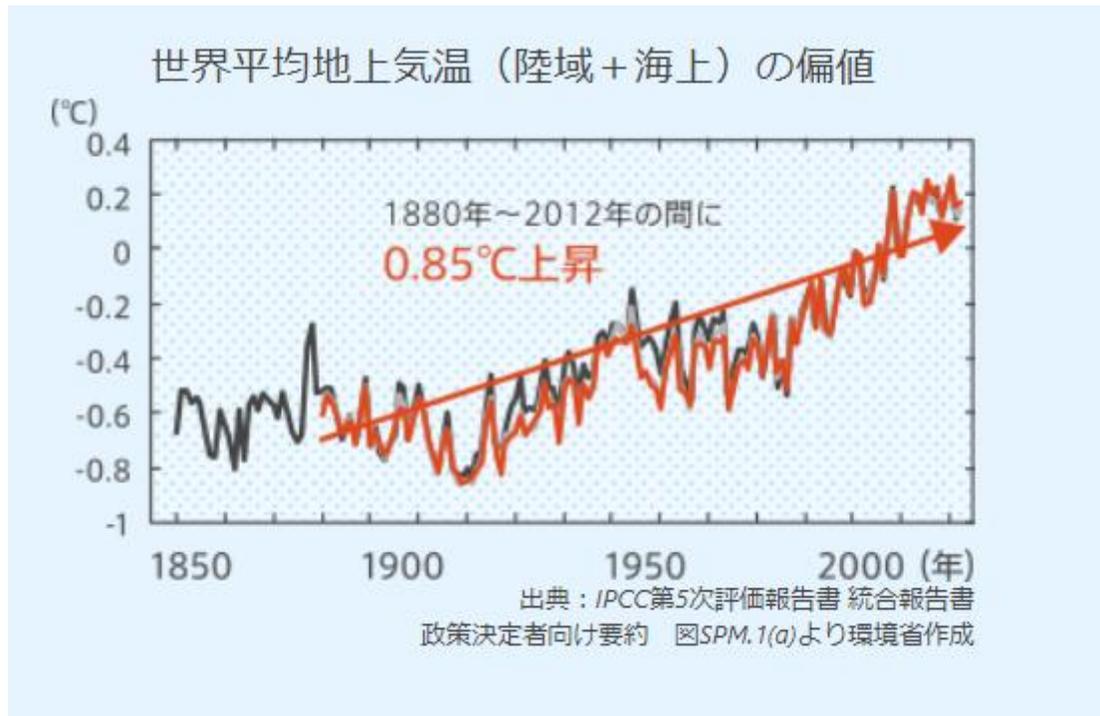


# 協力して問題解決の道を探る

- SDGsは日々の「**具体的**」生活に深く関わっている。
- 問題を見つけ、それを**解決につなげる行動**が必要。
- **問題は様々**ありえるし、**解決への道も様々**かもしれない。
- 十人十色、**問題もそれぞれ違う**かもしれない。
- そういう時には連携協力が必要で、**連携協力相手も様々**でありえる。
- 人間は一人では生きてゆけない、だからこそ**繋ぐこと**、**繋がる**ことが大切。

# 現実に目を向けてみると

# 地球温暖化



- 気候変動
- 気温上昇
- 農作物への影響
- 生態系への影響
- 海面上昇
- 海の酸性化

資料出典：環境省 <https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/ondanka/>

# プラスチックごみ問題

海洋ごみ問題の現状

1. 海岸での漂着ごみの事例

山形県酒田市飛鳥  長崎県対馬市 

2. 漂着物の例

漁具  ポリタンク  洗剤容器 

3. 想定される被害

- ・生態系を含めた海洋環境への影響
- ・船舶航行への障害
- ・観光・漁業への影響
- ・沿岸域居住環境への影響

⇒近年、海洋中のマイクロプラスチック(\*)が生態系に及ぼす影響が懸念されている。  
※サイズが5mm以下の微細なプラスチックごみ

海洋生物への影響  

マイクロビーズ  微細なプラスチック片 

資料出典：環境省（平成30年9月）「海洋ごみをめぐる最近の動向」、[https://www.env.go.jp/water/marine\\_litter/conf/02\\_02doukou.pdf](https://www.env.go.jp/water/marine_litter/conf/02_02doukou.pdf)

# 世界の社会格差

- **社会保障給付を受けるこどもの割合：35%**
- **出産手当を受ける新生児の母親の割合：41%**
- **障害者年金を受ける重度障害者の割合：28%**
- **年金を受ける定年退職者の割合：68%**
- **失業手当を受ける失業者の割合：22%**

資料出典：日本ユニセフ協会 <https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/10-inequalities/>

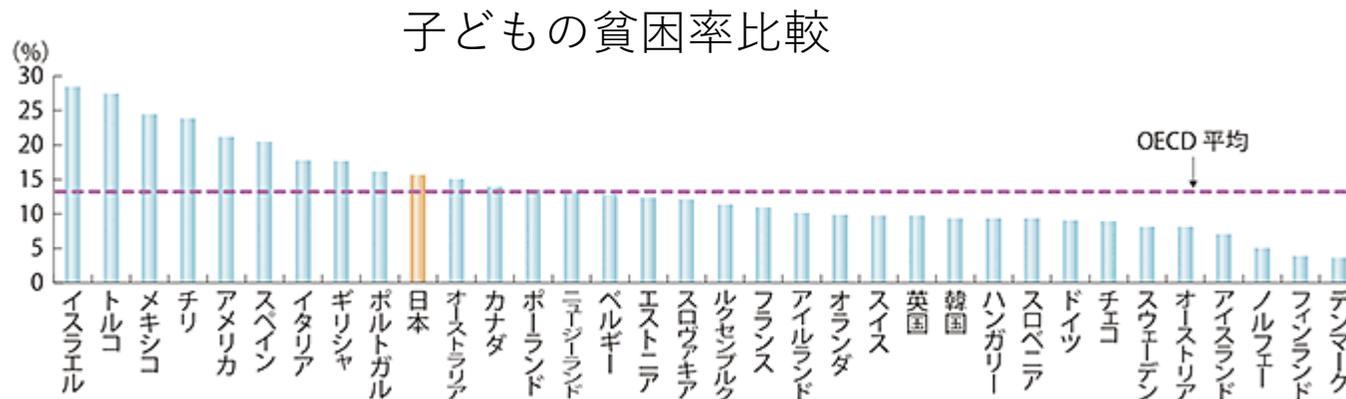
# 世界の所得格差と貧富格差

- 世界の各国を比べてみると、**所得の格差と貧富の格差には相関がある。**
- **所得の格差の大きい国は、貧富の格差も大きくなる傾向にある。**
- **日本は英国と比べると、所得の格差も貧富の格差も大きい**が、**アメリカと比べると共に小さい。**

資料出典：ニッセイ基礎研究所 <https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=70440?site=nli>

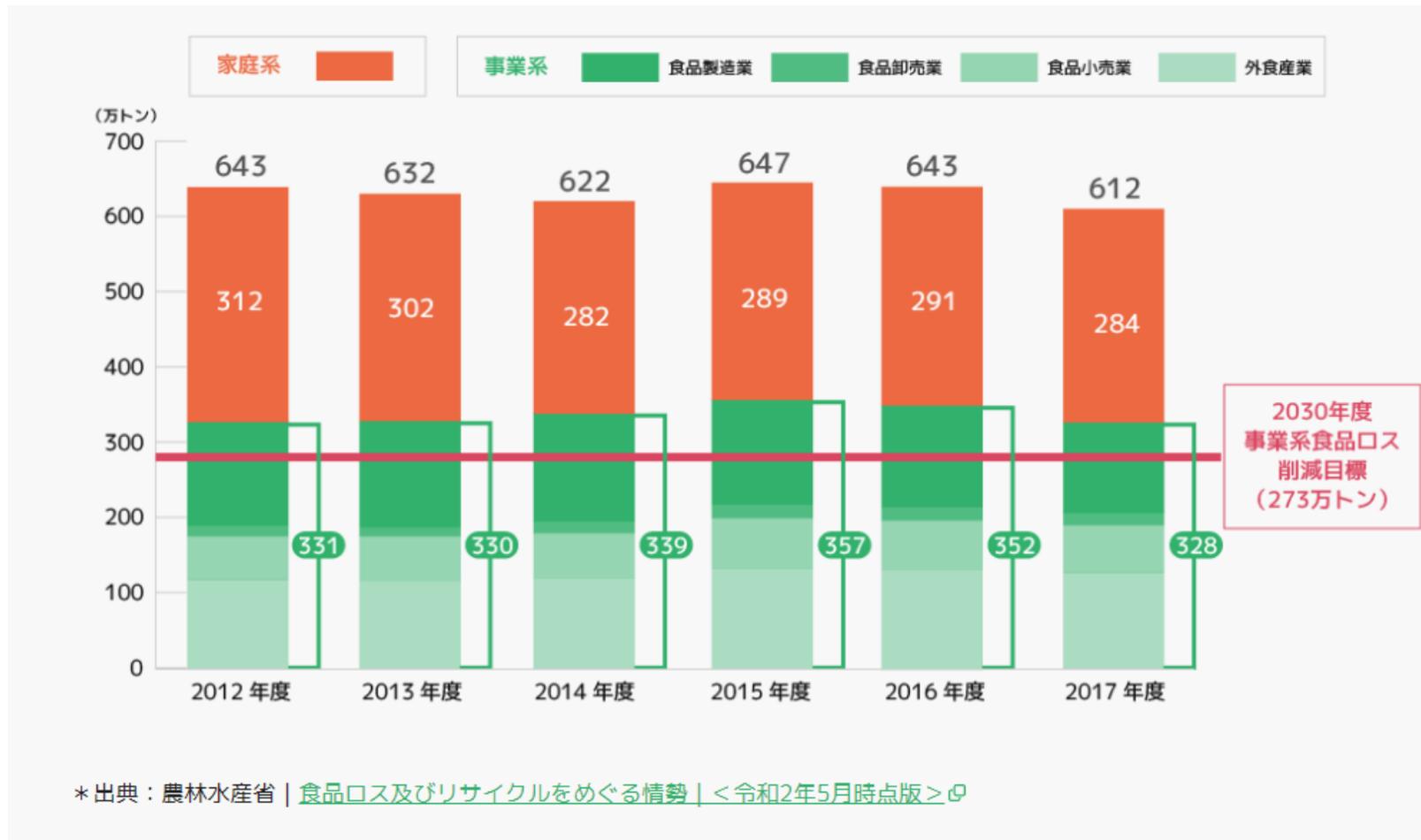
# 日本の貧困問題

- 2014年年、OECD34カ国の相対的貧困率の高さでいうと、日本は、イスラエル、メキシコ、トルコ、チリ、アメリカに次いで6位。
- 子どもの貧困率の高さは、10番目。OECDの平均よりも高い。



資料出典：内閣府ウェブサイト（平成26年版『子ども・若者白書』より、）  
[https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/b1\\_03\\_03.html](https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/b1_03_03.html)

# 日本の食品ロス問題



# 3Rから循環経済へ移行できるか

- これまで日本はリデュース・リユース・リサイクル（いわゆる**3R**）政策を推し進め、ごみの減量化に成功した。
- しかし、これからは**資源の高度な循環利用の経済社会**、すなわち**循環経済**の構築が必要になる。
- 今後天然資源は徐々に少なくなり（これを**ピークアウト**という）、**資源の効率的利用**を進めなければならない。
- **天然資源の投入量を抑制**し、**節約利用**する、すなわち**高度な循環利用が不可欠**となる。

# 資源循環利用問題をどう考えるか

- 今や**資源の高度な循環利用**はどの市町村でも不可欠。
- 高山市では**一体何が問題**なのか。
- どうすれば**資源の循環利用が進む**のか。
- それによって**何が解決する**のか。
- **誰と連携協力**すれば良いのか。
- **SDGsのどの目標 ( goals ) と関連づけて行動する**のか、これが大きな問題となる。

# どうすればよいのか

# SDGsを達成するためには

- 「**つくる責任、つかう責任**」を全うすることが重要（**SDGs Goal 12**）。
- 作り人（企業）にも責任があるが、**使う人（消費者）にも責任がある**。
- それぞれの責任を果たすためには**人と人、人と企業、企業と企業、人・企業と行政が繋がること**が重要。
- **解くべき問題**はなんなのか、どこに問題があるのか。
- 具体的問題を特定して**課題解決**に邁進する。

# トピック：再使用容器はお洒落！

- **Loop**という仕掛け(企業とテラサイクルの連携協力)は化粧品や洗剤などの容器類の**オシャレなりターナブル化**(**新しい付加価値!**)を目指している。
- 資源の高度な循環利用のためには**関係各主体の連携協力**(**パートナーシップ**)が必要。

# ここで重要になる消費者の役割

- 世界の8億人近くが必要最低限の食料を得られないことに思いを馳せる。
- 国連世界食糧計画が毎年食糧援助する量の1.5倍の量の食べられる食品を日本人は捨てていることを考える。
- だから食べ残しはなるべく避ける。
- 食べられるのに残った食品はフードバンクなどに回す運動の後押しをする。

# 飛騨高山SDGsパートナーシップセンター

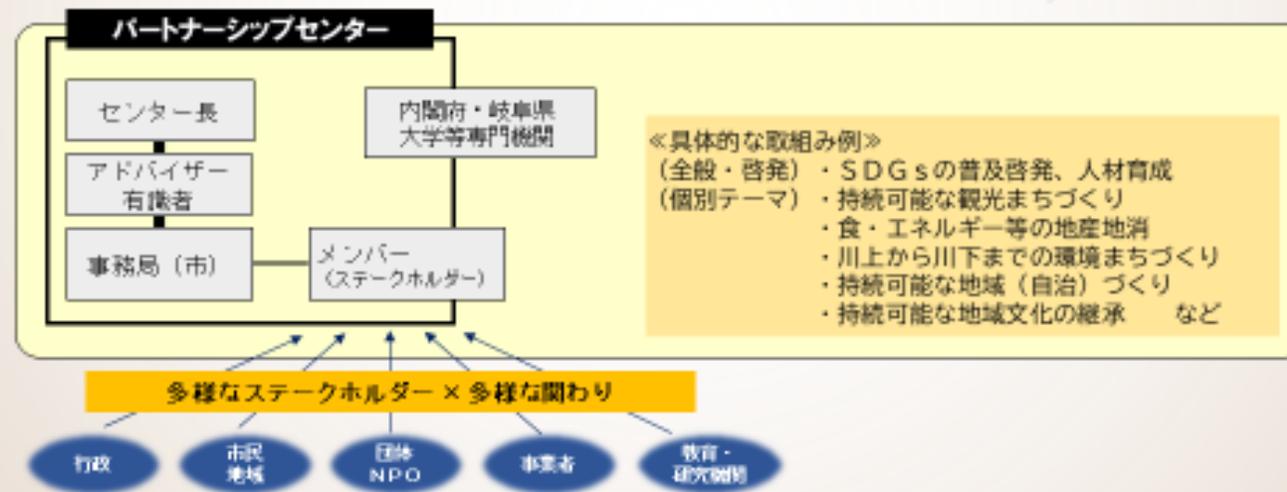
## 飛騨高山SDGsパートナーシップセンターの設立

SDGs推進の原動力となる市民、団体、事業者など  
多様なステークホルダーが参画するSDGsの推進のためのプラットフォーム

一人ひとりの考え方、価値観、環境は異なるが、  
それを越えてSDGsという共通目標の達成に向けて、  
つながらなかった人とつながることで起こり得なかった行動が起こる

そのためには、  
どんな取り組みが必要なのかを  
考えるのが  
パートナーシップセンターの役割

《体制のイメージ》



# 飛騨高山SDGsパートナーシップセンター

## Action 1

### SDGs活動の活性化（ステークホルダーの連携促進）

- ・飛騨高山SDGsパートナー登録制度の運用

SDGsの理念に沿った取組みを積極的に行い、他のステークホルダーとの連携・協力の意思のある団体、事業者等の登録制度を立ち上げ、各団体等が行うSDGs活動の見える化とパートナー同士の交流、マッチング支援を行う。

# 飛騨高山SDGsパートナーシップセンター

## Action 2 SDGsの気づき、きっかけづくり

- ・ 私なりのSDGs宣言制度の運用（令和3年8月開始）  
市民等のSDGsに対する理解の深化とSDGsの自分事化によって  
市民等と一体となったSDGsの展開を進める  
＜今後の展開（案）＞
  - ・ 子どもや若者による宣言の広がり
  - ・ 複数人による共通目標の設定と参画者の募集による一体感の醸成
  - ・ 宣言後のフォローアップ（継続・発展につながる取組み）

# 飛騨高山SDGsパートナーシップセンター

## Action 3

### SDGsに関する普及啓発・情報発信

- ・市ホームページ、SNS等による情報発信
- ・シンポジウムやセミナーの開催
- ・SDGsについて学べるリーフレットやコンテンツの作成 など

# 市民一人一人のかかわりが欠かせない！

私なりのSDGs宣言数が1000件を超えました！

日常生活の中の、ほんの少しの心掛けがSDGsの達成につながることへの気づきが、宣言の件数増加につながったことが伺えます。

市では引き続き『私なりのSDGs宣言』への参加を募集しています。私たち一人一人の小さな気づきと行動が、未来の高山市を、そして未来の地球を創ります。ぜひご参加ください。



令和4年9月末現在  
1,687件

# おわりに

- SDGsの目標達成は、まずは**身近な問題の発見**から始まる。
- 困っている問題、それを**解決 ( Solution ) に繋げようとする事**が重要。
- **市民の力**、そして**連携協力 ( Partnership ) の相手**を探す。
- 環境NGOや市は**コーディネーター役**になり、色々な主体のまとめ役になれる。
- **多様な主体の参画を促すこと**が不可欠。→環境保全では**多様性**がキーワード。
- **飛騨高山SDGsパートナーシップセンター**の役割の重要性！